

## 事業戦略(Phase 1\_2026-2028)

### セグメント

### プレジジョンイノベーション

### 技術進化で成長機会を確実に捉え、エプソンの成長をけん引

プレジジョンイノベーションは全社成長と利益創出のエンジンであり、Phase 1で最も高い売り上げ・利益成長を期待しているセグメントです。プリントヘッドを中心としたインクジェットソリューションズ、タイミングデバイスを中心としたマイクロデバイス、高機能金属材料のトップシェアを誇るエプソンアトミックス事業から、構成されます。エプソンは、精密加工・材料プロセス・MEMS設計を自社内で統合できる稀有な企業です。これらを踏まえて、このセグメントには2026～2028年度で1,300億円を投資し、インクジェット、マイクロデバイス、微細合金粉末を横断的に強化していきます。

#### セグメント 目標

CAGR **8%**

#### 重点施策

#### インクジェットソリューションズ

- 競争力あるプリントヘッドを核に、技術進化とエンジニアリング強化
- 共創・出資を活用し用途・市場拡大しものづくり変革をけん引

#### マイクロデバイス

- 能力増強と生産の高効率化でシェア拡大
- 技術革新と差別化製品の拡充で、AI・データセンター・車載などの成長市場のニーズに対応

#### エプソンアトミックス(微細合金粉末)

- 世界トップクラスのシェア<sup>\*2</sup>を堅持、収益拡大
- 生産能力増強による需要取り込みの最大化
- 自社金属精錬による高機能・高付加価値化

<sup>\*2</sup> アトマイズ法で製造されるアモルファス粉末の販売において

成長投資(2026～2028年度累計)

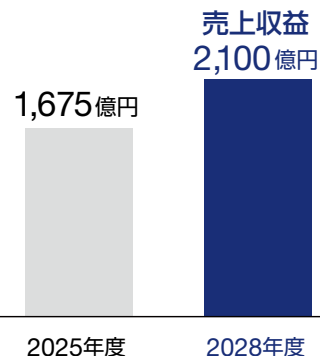
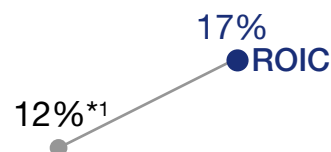
**1,300億円**



東北エプソン  
新棟(6号棟)



エプソンアトミックス  
北インター第二工場



### 機会とリスク

地政学リスクの高まりや脱炭素化の進展を背景に、エネルギー・資源の効率利用や資源循環への要求が高まっています。また、AI・半導体・通信分野での技術革新加速により、高性能化と低消費電力化の両立に対するニーズも拡大しています。これに伴い、省エネルギー・省資源を実現する高効率製品や技術、高精度・低消費電力・高信頼性を実現するデバイスへの需要が拡大しているほか、資源循環や再資源化関連領域においても事業機会が広がっており、当社にとって大きな成長機会となっています。一方で、技術革新のスピードが加速する中、開発競争の激化や求められる性能水準が高まっています。こうした変化への対応が遅れた場合、市場機会の逸失や価格競争力の低下を招き、市場シェアの低下や収益性の悪化につながるリスクがあると捉えています。

### 事業戦略と提供価値

#### インクジェットソリューションズ



詳細は、P.33-34  
特集「Technology Innovation×Engineering」を参照

エプソンのインクジェットは、熱を使わず、必要な場所に必要な量の材料を吐出するアディティブな技術です。エプソンはこの技術を長年磨き続け、現在では家庭用プリンターの領域を超え、サイネージ、デジタル捺染、電子基板配線、ディスプレイ製造、精密部品への塗布、医療、太陽電池製造など、多様な産業分野へ応用を拡大しています。エネルギー制約や環境規制、材料価格の高騰、人手不足といった社会課題が深刻化する中、省資源・低環境負荷・高効率を実現できるインクジェットへの技術転換が加速しています。こうした変化を支える当社のヘッドは、吐出精度や生産性、対応材料の拡大を通じて、用途開拓と技術革新を推進しています。また、周辺システムやソリューションの提供も進めることで、お客さまが導入しやすい環境づくりにも取り組んでいます。私たちは、業界をリードする規模の生産体制と開発リソースを強みに、世界中のパートナー企業やお客さまとの共創を通じて、新たな産業や市場そのものを創出し、「省・小・精」の理念をさらに進化させながら、持続可能な社会と産業の未来創造に貢献します。



福田 俊也

執行役員  
IJS事業部長  
MEMS・デバイス開発センター長

<sup>\*1</sup> 2026年3月時点での見込み

## マイクロデバイス

詳細は、P.33-34  
特集「Technology Innovation×Engineering」を参照

AI・データ基盤の拡大やテクノロジーの進化を背景に高まる電力需要や脱炭素化への対応を見据え、高精度・低消費電力・小型化を同時に実現するデバイスの提供に取り組んできました。一般的にトレードオフの関係にあるこれら3つの性能に対し、エプソンは、水晶の製造技術と半導体のロジック設計技術の双方を併せ持つ強みを生かし、両技術の融合による独自の統合設計で最適解を導き出し、高周波発振器や高精度なタイミングデバイスとして長年にわたり社会実装してきました。

今後、さらなる拡大が見込まれるデータセンターや高速通信インフラ、AI、自動運転などのモビリティ分野では、大容量・高速演算、高速通信を支える高精度なタイミング信号の重要性が一層高まっています。これを機会と捉え、エプソンの成長エンジンの一つとして、テクノロジーの進化を支えるデバイスの継続的な提供と独創技術を生かした次世代デバイスの開発を推進するとともに、成長投資を通じた能力向上と生産の高効率化を行います。これらの取り組みにより、さらなる市場開拓を進めていきます。



則松 力

執行役員  
マイクロデバイス事業部長

## エプソンアトミックス

エプソンアトミックスは、高機能金属粉末製品の開発から製造・販売までの一貫した事業活動を展開しており、成長エンジンであるプレジジョンイノベーション領域において全社の売り上げ成長と利益創出を支える重要な役割を担っています。生産拠点は、青森県八戸市に本社工場・北インター事業所を構え、2025年6月には第三の生産拠点となる北インター第二事業所に金属精錬工場を竣工し、さらに2026年9月には同敷地にSWAP<sup>®</sup>\*3新工場\*4の建設着工を決定するなど、継続的な戦略投資を実施しています。また微細合金粉末の中長期的な需要拡大を確実に取り込むために、技術優位性を基軸とした成長戦略を推進しています。特に独自のSWAP<sup>®</sup>法によるアモルファス合金粉末は、高周波化に伴う省エネや小型化といった社会ニーズにマッチした高機能金属粉末材料であり、車載機器やAI・データセンター向け電源用途など成長市場分野での事業拡大を図っています。

今後、成長市場をターゲットとして事業成長戦略に沿った生産体制の強化ならびに技術開発体制の構築を図るとともに技術的な強みを活かした高付加価値製品を市場投入し、社会課題の解決と持続的な成長に貢献します。

詳細は、  
PICK UPを参照

大塚 勇

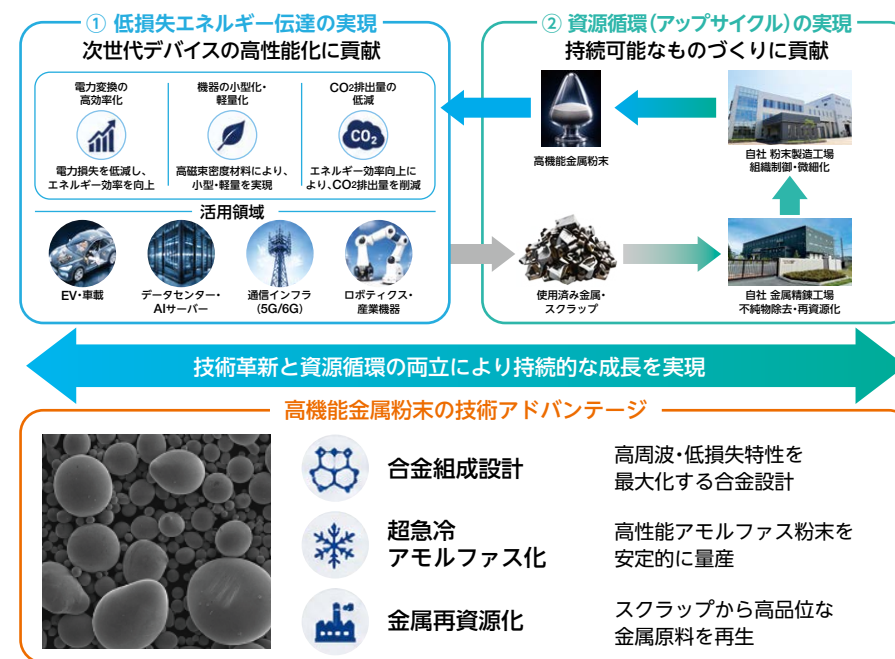
執行役員  
材料・加工プロセス開発センター長  
AI開発・分析技術センター長  
エプソンアトミックス株式会社  
代表取締役社長

\*3、\*4の注釈は、P.66へ

## PICK

## UP

## 価値提供事例

精密技術でテクノロジーの進化を支える  
－ 高機能金属粉末で実現するテクノロジー進化と資源循環

AI・データセンターの急速な拡大に伴い、電力需要の増加とエネルギー効率向上が重要な社会課題となっています。エプソンアトミックスのアモルファス合金粉末は、電源部品の低損失化に貢献し、データセンターやAIサーバーの省エネルギー化を支える材料として採用が拡大しています。

エプソンアトミックスの強みは、材料開発から再資源材料を活用した粉末製造・加工までを一貫して保有する独自の技術基盤にあります。2025年に稼働した金属精錬工場では、使用済み金属を再資源化し、高機能金属粉末として再び価値化する資源循環の仕組みを構築しました。

さらに、材料・加工プロセス開発やデジタル技術との融合により、材料設計から量産プロセスまでの最適化を推進しています。これにより、高性能化と資源循環を両立しながら、成長市場における競争力強化を図っています。

## 事業戦略(Phase 1\_2026-2028)

### セグメント

### インダストリアル&ロボティクス

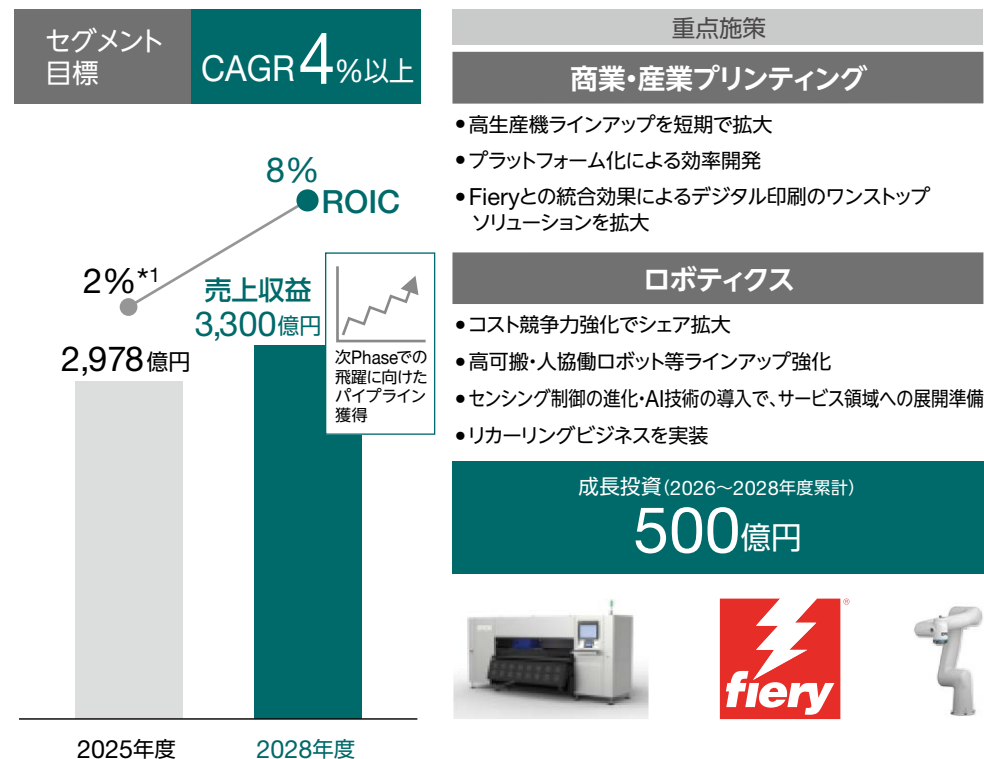
### インクジェットとロボティクス技術で成長市場を切り開く

インダストリアル&ロボティクスのセグメントはPhase 1からPhase 2に向かってさらなる成長を期待する領域です。そのためにこれまで以上にハードウェア、ソフトウェア、サービスを組み合わせたソリューションラインアップを徹底拡充していきます。

商業・産業プリンティングは、完成品として高生産機を中心にラインアップをそろえ、Fieryと連携したソリューションを拡充し、お客さまに対してアナログからデジタルへの転換を強力に後押しして市場変化を加速させます。

ロボティクスでは、製造業種にとどまらず、エプソンの強みであるセンシングと制御技術に加え新たにAIなども統合します。そして、さまざまなサービス領域や省人化需要に対して、長くお使いいただけるビジネスモデルを実装します。

こうした活動の中で確実にお客さまとの強力な関係を作り上げて、将来の有望なパイプラインを築き上げます。そのために、2026~2028年度で500億円の投資を計画しています。



### 機会とリスク

労働人口減少に伴う人材確保難や人件費上昇、熟練技能継承の難化を背景に、生産性と品質の維持・向上への要求が高まっています。これに伴い、自動化・省人化や工程最適化へのニーズが拡大し、生産関連ソリューション市場が成長するとともに、高品質・高効率な生産や生産プロセス全体の最適化への需要も拡大しています。さらにAIやセンシング技術の進展により、自動化ソリューションの適用領域拡大も期待されており、当社にとって大きな成長機会となっています。一方で、価格競争の激化や顧客ニーズの多様化が進む中、ソリューション・サービスを通じた差別化が十分に図れない場合、市場シェアの低下や収益性の悪化につながるリスクがあると捉えています。

### 事業戦略と提供価値

#### 商業・産業プリンティング

P商業・産業ソリューションズ事業部は、長期ビジョン「ENGINEERED FUTURE 2035」に基づき、「省・小・精」を核としたインクジェット技術とエンジニアリング力を通じて、商業・産業分野の構造的課題解決を担っていきます。労働力不足の深刻化、多品種・小ロット・短納期化、環境負荷低減といった変化に対し、アナログ中心の印刷工程をデジタルへ転換し、生産プロセス全体を最適に設計していきます。高生産・高画質・安定稼働を実現するプリンターに加え、お客さまの生産性と収益性が向上する品質とコストを実現するインクを提供し、運用設計やサービスを含むソリューションをFieryとの連携により提供することで、生産性と信頼性を向上させます。

販売戦略においては全世界で画一化したビジネスモデルではなく、新興国地域、先進国地域ごとにお客さまの要望に合った商品・サービスをベースにしたビジネスモデルを立案し、実行することで世界中のお客さまに満足していただき、事業の成長を加速させていきます。

詳細は、  
LINK PICK UPを参照



深石 明宏

取締役執行役員

営業本部長

P商業・産業ソリューションズ事業部長

PICK

UP

価値提供事例

## 使いやすさと安定稼働を両立し、幅広い素材へ鮮やかなプリントが可能な捺染Direct to Filmプリンター

商業・産業プリンティング



捺染Direct to Filmプリンター SC-G6050



幅広い素材へ鮮やかなプリントが可能

捺染用Direct to Film (DTF) は、近年、ウェアプリント・グッズ市場で注目される技術です。2025年5月に発売した「SC-G6050」は、エプソン初となる捺染用DTF専用プリンターです。エプソンが捺染事業で培ってきたハードウェア、プリントヘッド、インクの技術をプラットフォームとして活用し、短期間での商品化を実現しました。本商品は、専用フィルムに直接インクを印刷した後、ホットメルトパウダーの塗布・熱乾燥を経て、熱プレスによりTシャツなどの生地へ転写します。綿、ナイロン、ポリエステルなど、幅広い素材に対してフルカラー印刷が可能である点が特長です。また、従来のDTFプリンターにおける課題であったメンテナンス工数の削減と安定稼働を両立しています。

さらに、DTF分野において実績を有するFiery社のソフトウェア「Digital Factory」をバンドル<sup>\*2</sup>することで、プリンターの性能を最大限に引き出し、印刷工程の効率化と高品質な出力を実現します。

<sup>\*2</sup> 欧米地域仕向けのみ

## ロボティクス

高速・高精度を強みとする産業用ロボットを核に、センシング・制御技術やAI技術を融合し、製造業にとどまらない成長市場の開拓を進めています。特にスカラロボットでは2025年もグローバルシェアNo.1<sup>\*3</sup>を維持しており、電気・電子部品、医療機器、自動車関連など幅広い分野で高い評価を得ています。今後は、高可搬・人協働ロボットなどラインアップを拡充するとともに、力覚センサー、ビジョンシステム、パーツフィーダーなど周辺機器を組み合わせたトータルソリューション提案を強化していきます。合わせて、コスト競争力と販売力を磨き、景気変動や設備投資の停滞局面でも利益を確保できる強靱な事業構造の構築を進めています。さらに、人手不足や省人化ニーズの高まりを背景に、サービス領域への展開やリカーリング型ビジネスモデルの実装を推進し、お客さまに長く安心して使っていただける価値提供を目指します。加えて、顧客課題を深く理解する顧客知力を磨き、ソフトウェアやデジタル技術との統合を進めることで、製品提供を超えた価値創出を実現し、お客さまの生産性向上と持続可能な社会の実現に貢献していきます。

<sup>\*3</sup> 産業用スカラロボットの2025年の金額ベース出荷実績において  
(株式会社富士経済「2026年版ワールドワイドロボット関連市場の現状と将来展望」調べ)



吉野 泰徳

取締役執行役員  
経営戦略本部長  
ビジュアルプロダクツ事業部長  
ロボティクス事業部長

PICK

UP

価値提供事例

## 生産性向上に貢献

### ロボティクス

人手不足や生産コスト上昇への対応に向け、スカラロボット「LA-Aシリーズ」を投入。機能を厳選した設計により高いコストパフォーマンスを実現し、軽量・コンパクトで高精度・高信頼性を維持。汎用性の高いモデルとして、価格競争の厳しい中国市場をはじめ、世界各地で省人化と生産性向上に貢献しています。



「LA3/6-A」シリーズ

## 事業戦略(Phase 1\_2026-2028)

### セグメント

### オフィス・ホームプリンティング

### 新興市場での成長と収益モデルの変革

オフィス・ホームプリンティングは、エプソンに大きな3つの強み・資産をもたらしています。「全世界の膨大な市場稼働台数をベースにしたBtoC、BtoBのお客さま基盤」「新興市場での成長とお客さまからの強いブランドへの信頼」「圧倒的な量産を背景にしたグローバルサプライチェーンの競争力」です。

大容量インクタンクモデルを中心としてインクジェット的应用により新たな巨大市場を作り上げた実績をベースに、オフィスやバーチャル業種においてもインクジェットへのテクノロジーシフトを着実に進めています。

ポテンシャル国への展開も含めて新興市場では、市場成長以上にシェアを高めていきます。こうした販売力に加え、現地での企画設計力、ソリューション提案力、継続的な需要充足のためのビジネスモデルを提供していきます。また、確実に構造変革をこの中期期間に成し遂げ、安定収益基盤としてエプソンの成長セグメントへの投資を支えていきます。

### 機会とリスク

環境意識の高まりやエネルギー価格の上昇、人件費上昇を背景に、環境負荷低減や業務効率化に貢献する製品・サービスへの需要が高まっています。また、新興国では経済成長や中間層の拡大に伴い、教育機会や情報アクセス向上への需要も拡大しています。これに伴い、教育・公共・オフィス分野を中心に、環境性能と業務効率を両立する機器・サービスへの需要が拡大しているほか、運用管理や業務プロセス効率化を支援するソリューション需要も広がり、当社にとって成長機会となっています。一方で、デジタル化の進展や代替技術の普及により印刷需要の構造変化が進んでいます。また、価格競争の激化や市場環境の変化が進む中、顧客基盤を活用した継続収益型ビジネスの拡大やソリューション提供による付加価値向上が十分に図れない場合、市場機会の逸失や収益性の低下につながるリスクがあると捉えています。

### 事業戦略と提供価値

#### オフィス・ホームIJP

当事業は、「省・小・精」の技術をベースに、エプソンならではのプリンティングの価値を、地域や業種に応じた最適な形で提供し、お客さまと社会にとってなくてはならない存在であり続けることを目指しています。

オフィス向けインクジェット複合機は、ヒートフリーによる環境性能と、低メンテナンスによる高い利便性を両立した、従来のレーザー複合機とは一線を画す商品です。自社販売網に加え、共創パートナーとの連携を強化することで、より多くのお客さまに価値を届け、事業成長と環境負荷低減を両立していきます。さらに、強固なプラットフォームを基盤にラインアップを拡充し、オフィスにとどまらず、新興国需要から軽印刷まで幅広いニーズに対応し、継続的な成長を果たしていきます。

大容量インクタンクモデルは、「気兼ねなく印刷できる価値」を提供する商品として2010年に販売を開始し、2024年度には累計販売台数1億台を達成しました。さらに2025年度には、同モデルが販売をけん引し、カートリッジモデルを含むSOHO・ホームIJP市場においてトップシェア\*3を獲得しています。

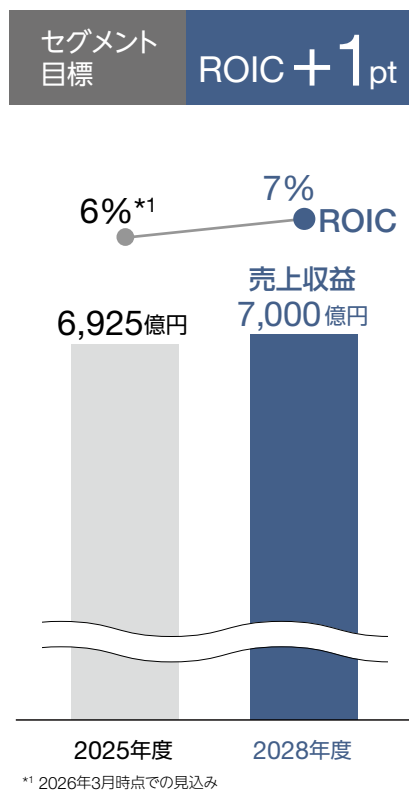
今後も商品価値の向上に加え、エプソンコネクトなどの印刷プラットフォームと組み合わせることで、教育現場における探究活動や、観光地・イベントにおけるオンデマンド印刷など、新たな価値創出を推進していきます。

詳細は、  
LINK PICK UPを参照



山田 陽一

執行役員  
Pオフィス・ホームソリューションズ  
事業部長



#### 重点施策

#### SOHO・ホームIJP

- ・新興市場での市場拡大機会を確実に獲得
  - ・重点エリアを定め、販売網を強化
  - ・現地企画・設計拡充による対応スピード向上
- ・成熟市場で収益モデルを進化し顧客生涯価値を向上
  - ・リカーリングビジネスの拡充

新興市場シェア(大容量インクタンクモデル) リカーリングビジネス

53%\*2 → 55%超

\*2 エプソン調べ

#### オフィス共有IJP

- ・LPからIJPへのテクノロジーシフト(環境・利便性の価値向上)でMIF拡大
- ・ソリューション提案強化・顧客接点拡充

#### 共通

- ・ものづくり革新によるオペレーションの効率化
- ・生産性向上とグローバル体制最適化

PICK

UP

価値提供事例

## 低消費電力、低メンテナンス、低コスト、高生産性

### Pオフィス・ホームソリューションズ事業



LM-C6000  
一般社団法人 防災安全協会が  
認証する「防災製品等推奨認証」  
を取得 (2025年11月)



AI関連の教育ソリューション (中国)

エプソンのオフィス向けインクジェット複合機は、熱を使用しないシンプルな印刷プロセスを採用しています。これにより、主流であるレーザー複合機と比較して、低消費電力・低メンテナンス・低コストを実現するとともに、高い生産性を提供します。こうした特長は、電力インフラや交通インフラが整っていない新興国や、災害時など電力供給が不安定な状況において、従来の印刷手段では提供が難しい価値として評価され、活用が進んでいます。

さらに、ラインアップの拡充を通じて、オフィスに加え、学校、自治体、医療など幅広い分野に展開し、多様なニーズに対応していきます。例えば、中国では学校教員の負荷軽減を目的に、AIを活用した試験問題の作成支援や採点ソリューションを提供しています。インクジェット技術の価値を起点に、今後もお客様の課題解決に資するソリューションの拡充を図っていきます。

PICK

UP

価値提供事例

## お客さまニーズに応じた最適なソリューションを提案

### Pオフィス・ホームソリューションズ事業



コンビニエンスストア設置による  
プリントサービス提供 (中国)



中東における拠点プリントサービス  
(CommuPrint) デモ

エプソンは、大容量インクタンクモデルをコンビニエンスストアや荷物集配所に設置し、お客さまに印刷サービスを提供する取り組みを中国で開始しました。これにより、お客さまの印刷における利便性を高めるとともに、家庭内印刷需要や新たなプリント需要の取り込みを図っています。また、サービス展開にあたっては、共創パートナーとの協業により、お客さまの使い勝手を高める工夫を凝らすことで、より顧客価値の高いサービスを展開しています。

同様のコンセプトは、中東やインドへも展開を進めており、機器販売にとどまらず、周辺ソリューションを含め、お客さまへの価値提供を強化しています。

今後も共創パートナーとの連携を通じて、お客さまのニーズに沿った最適なソリューションの提案を行うことで展開エリアと提供価値の拡大を図り、持続的な成長につなげていきます。

## 事業戦略(Phase 1\_2026-2028)

### セグメント

### ビジュアル&ライフスタイル

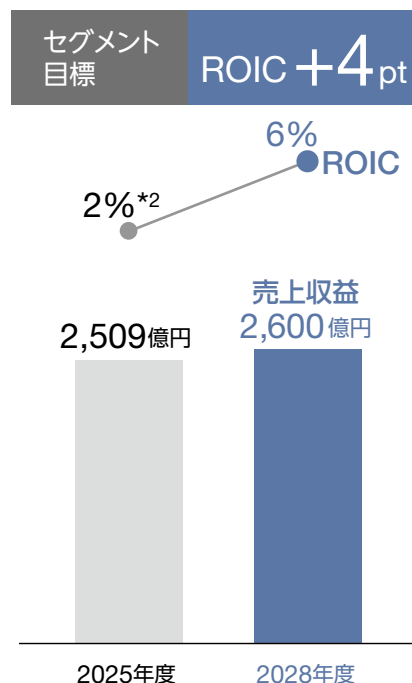
### 収益モデルの変革や効率化により、安定的に利益創出

ビジュアル&ライフスタイルは、極めて特徴のある技術の強みを生かしたセグメントです。

ビジュアルプロダクツのプロジェクトは世界シェアNo.1\*1です。市場そのものの成長課題はありますが、教育やプロジェクションマッピングやイマーシブなどプロジェクション技術が必要な領域にさらに特化して需要を開拓していき、そのプレゼンスを維持します。また、構造改革を完遂させ、今以上に安定的な利益創出をしていきます。

ウェアラブル事業はエプソンにとって大切な祖業です。また、その技術の高さは業界屈指であり続けています。商品力・ものづくりを磨き上げるとともに、オペレーションの効率化により、さらに収益性を向上させていきます。

\*1 スクリーンレスTV製品を除く500ルーメン以上のプロジェクターシェア2024年度  
出典：Futuresource Consulting Ltd.



\*2 2026年3月時点での見込み

#### 重点施策

#### ビジュアルプロダクツ

- No.1シェアのプレゼンス維持・拡大
- バーチャルアプローチ強化
- 遠隔保守をはじめとする利用者のニーズに応じたサービスの拡充
- 構造改革の完遂

世界シェア

52%\*1 → 60%超



#### ウェアラブルプロダクツ

- 商品力・ものづくりを磨き上げ、オリエントビジネスを高収益化
- オペレーション効率化で収益性を向上

### 機会とリスク

教育・オフィス・商業・イベント分野において、デジタル化や働き方・学び方の多様化を背景に、映像を活用した体験価値やコミュニケーションの高度化へのニーズが高まっています。加えて、新興国では経済成長や中間層の拡大に伴い、教育機会の拡充や情報アクセス向上への需要も拡大しています。これらを背景に、新たな用途や空間演出を含む映像活用への需要が広がっており、当社にとって成長機会となっています。一方で、大型ディスプレイをはじめとする他の表示技術の進化など、競争環境は変化しています。このような環境下で、用途提案やサービスを通じた差別化が十分に図れない場合、市場シェアの低下や収益性の悪化につながるリスクがあると捉えています。

### 事業戦略と提供価値

#### ビジュアルプロダクツ

長期ビジョン「ENGINEERED FUTURE 2035」に掲げた、構造改革の完遂と収益モデルの転換を軸に、安定的な収益創出と将来成長への資源配分を両立していきます。

市場環境においては、教育・オフィス・商業・イベント分野におけるデジタル化の進展や、働き方・学び方の多様化により、大画面・高臨場感・高精細な映像体験への期待が高まっています。また、プロジェクションマッピングなどのイマーシブ用途や空間演出など、新たなプロジェクションニーズも拡大しており、バーチャルアプローチ強化により市場を再定義し、需要を開拓していきます。

こうした環境下で当事業は、世界No.1シェアを有するプロジェクターをコアに、プロジェクション技術を進化させるとともに、高光束化や設置自由度の向上、運用の簡素化を実現し、顧客価値を強化します。さらに、ハード単体の提供にとどまらず、用途提案やサービスを組み合わせたソリューション提供へと進化させることで、価値提供の幅を拡大し、顧客との継続的な関係構築を進めます。これにより、「高品質な映像体験の提供」から「空間価値の創出」へと価値軸を拡張し、教育・オフィス・商業・イベント・ホーム領域において、人・情報・空間をつなぐ新たなコミュニケーション価値を提供していきます。

詳細は、  
LINK PICK UPを参照



吉野 泰徳

取締役執行役員  
経営戦略本部長  
ビジュアルプロダクツ事業部長  
ロボティクス事業部長

## PICK

### UP

#### 価値提供事例

## 高光束プロジェクターによる空間価値創出

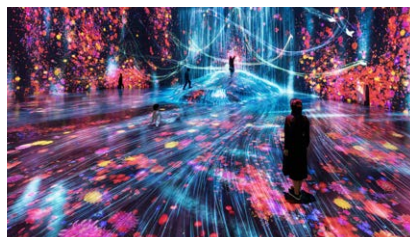
### ビジュアルプロダクツ



松本城プロジェクションマッピング(松本市共創プロジェクト)



使用したプロジェクター(EB-PU2220B)



『森ビル デジタルアート ミュージアム：  
エプソン チームラボボーダレス』  
麻布台ヒルズ, 東京 © チームラボ

高光束プロジェクターは、大規模空間における高品質映像表現を実現し、教育・イベント・商業施設などにおいて新たな体験価値を提供する中核商品です。近年では、大学講義や大型会議・展示・演出用途に加え、プロジェクションマッピングやイマーシブ空間など、新たな用途領域への拡大が進んでいます。

当社は、高輝度・高画質に加え、優れた設置自由度や信頼性を備え、大規模空間でも安定した運用を可能にしています。これにより、従来のディスプレイでは実現が難しい「空間全体を活用した映像演出」や「没入感のある映像体験の創出」を実現し、顧客の創造性や表現力を拡張します。また、設置・運用負荷の低減により、長期的な運用コストの最適化にも貢献します。

今後は、ハードウェアの性能進化に加え、ソフトウェアやサービスとの連携を強化することで、単なる映像表示機器にとどまらない「空間価値を創出するソリューション」として事業価値を拡大していきます。

### ウェアラブルプロダクツ

ウェアラブルプロダクツ事業は、OEMを中心とした既存事業に加え、自社ブランドおよび高付加価値領域の強化を通じ、事業構造の進化を進めています。

短中期では、外部環境の変化を的確に捉えながら既存事業の構造改革に取り組み、環境変動下でも安定収益を確保できる強靱な事業基盤の構築を図るとともに、収益性の向上を図ります。同時に、オリエントおよびオリエントスターを主軸に、ブランドアイデンティティの明確化と商品競争力の向上を進め、高品質で信頼性の高い商品と一貫した顧客接点を通じて、当社のものでづくりや価値観に共感いただけるお客さまに満足を提供する主柱事業へ育成していきます。

長期的には、塩尻事業所が有するマニファクチュール機能や長年培ってきた高度な技能に加え、エプソンの技術資産を最大限に活用し、事業活動の質的差別化と効率化を通じた顧客価値の拡張と持続的な成長機会の創出を目指します。これらを通じ、感性価値を含む顧客価値の蓄積による競争優位と高収益体質の確立を図ります。



林 昌志

執行役員  
ウェアラブル機器事業部長

## PICK

### UP

#### 価値提供事例

## MEMS加工技術を生かして商品価値を高める

### ウェアラブルプロダクツ、MEMS・デバイス開発センター

機械式腕時計の時間精度や駆動時間に大きく影響する重要部品である「がんぎ車」を、MEMS加工技術の応用によりシリコン製として実用化しました。本技術をオリエントスターに採用することで、時間精度を維持しつつ最大70時間\*3の駆動を実現するなど、よりお客さま価値の高い商品の提供に取り組んでいます。

\*3 従来の金属製がんぎ車搭載の場合と比べて最大20時間延長



オリエントスターに採用した  
シリコンがんぎ車

特集

# Technology Innovation × Engineering 成長エンジンの加速を共通目標に技術開発を進める

「ENGINEERED FUTURE 2035」において、当社はPhase 1における成長エンジンとして、プレジジョンイノベーションを中核に据えています。全ての領域に均等に投資するのではなく、成長をけん引する領域に経営資源を集中し、その成果を確実に企業価値へとつなげていくことが、現在の当社にとって最も重要な経営判断であると考えています。

プレジジョンイノベーションの中核であるインクジェットソリューションズおよびマイクロデバイスは、本社R&Dと事業部R&Dが長年にわたり連携しながら進化させてきた領域です。こうした継続的な技術開発の蓄積が、現在の事業成長の基盤となっています。

## ■ セグメント

|       | 特集                                                                                                      |                                                                                |                                                               |                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| セグメント | プレジジョンイノベーション                                                                                           | インダストリアル&ロボティクス                                                                | オフィス・ホームプリンティング                                               | ビジュアル&ライフスタイル                                                                                 |
| 事業    | <ul style="list-style-type: none"> <li>インクジェットソリューションズ</li> <li>マイクロデバイス</li> <li>エプソンアトミックス</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>商業・産業プリンティング</li> <li>ロボティクス</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>オフィス・ホームIJP</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ビジュアルプロダクツ</li> <li>ウェアラブルプロダクツ</li> <li>PC</li> </ul> |
| 位置付け  | 成長エンジン                                                                                                  | Phase 2での本格成長                                                                  | 収益基盤                                                          | 収益基盤                                                                                          |

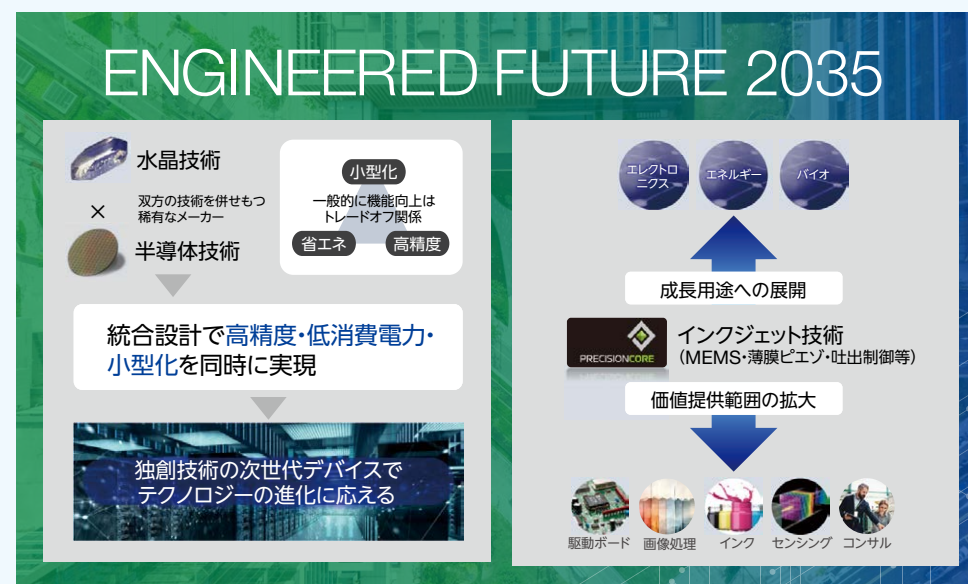
## 事業と連動した技術開発体制により成長エンジンの加速

各セグメントにおける価値創出を着実に実現し、成長エンジンを加速させるためには、技術開発を事業と一体で推進し、基盤技術から製品・事業までを一貫した体制でつなぐ仕組みが不可欠です。従来は技術領域ごとの最適化にとどまり、技術の応用展開や事業とのシナジー効果が限定的でした。この課題に対し、当社は分野横断で技術を統合する開発体制へと転換しました。その中核として、3つの技術開発センター（材料・加工プロセス開発センター、MEMS・デバイス開発センター、AI開発・分析技術センター）を設置し、技術の出口にあたる事業責任者が各センターの責任者を兼任することで、事業戦略と開発のベクトルを一致させ、基盤技術から製品・事業までを一貫して捉えた開発を推進しています。これにより、技術の社会実装を加速するとともに、成長領域における競争力と収益創出力を高めています。

## 技術優位性 × 事業直結 × 量産化により成長エンジンを支える

インクジェットソリューションズは、2021年比で売り上げを約3倍に拡大しました。その背景には、コア技術であるPrecisionCoreの進化があります。当社はこれまで強みとしてこなかった材料開発をゼロから立ち上げ、自社内製の材料を確立するとともに、事業部において継続的に性能向上を進めてきました。さらに、メカトロニクスによる高精度加工技術と、旧半導体事業で培ったMEMS技術を融合することで、完全MEMS構造のインクジェットヘッドを実現しています。この結果、従来の用途にとどまらず、産業用途におけるインクジェットの活用を大きく拡張し、現在では業界トップクラスのシェアを獲得するに至っています。

インクジェット、マイクロデバイス、エプソンアトミックスのそれぞれの事業においては、材料からデバイスまでを基盤とする独自の技術資産を活かし、次世代エネルギーやデジタル社会、自動車分野などのニーズに応える価値創出を実現しています。



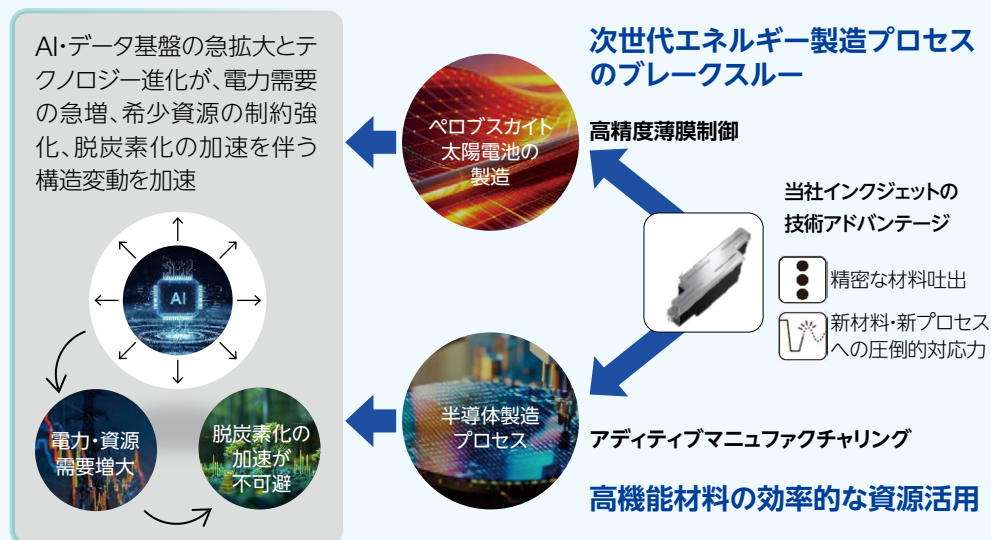
エプソンの技術開発は、単なる研究活動ではありません。これまで蓄積してきた膨大な技術資産と知見を、組織横断で活用できる形にし、製品開発のスピードを高めるとともに、製造DXやAIの活用によって高効率・高品質なもののづくりを実現しています。従来から強みとしてきた精緻な加工・自動化技術とデジタル技術を融合させることで、社会にとって意味のある価値を、いち早く提供していきます。

今後もエプソンは、成長エンジンへの集中と技術開発の進化を通じて、エネルギーやデータといった社会課題の解決に貢献し、持続的な企業価値の向上を実現していきます。

## 事例紹介

## 「ENGINEERED FUTURE 2035」における価値提供領域の進化

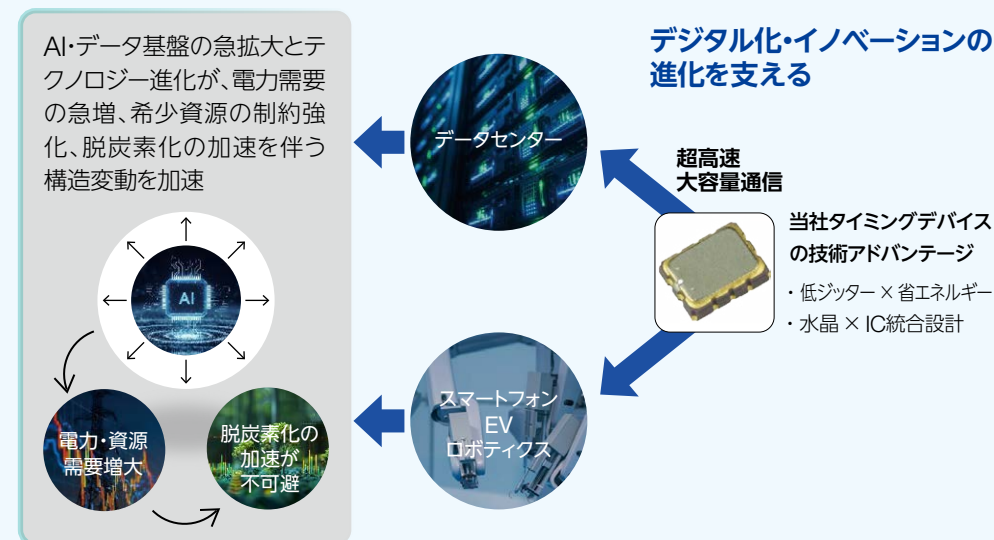
## エネルギー・資源の効率化を支える | インクジェット



## インクジェット技術による価値提供

AI・データ基盤の拡大に伴い、電力需要の急増や希少資源の制約が社会課題となる中、エネルギー・資源をより効率的に活用する製造プロセスの革新が求められています。エプソンのインクジェット技術は、必要な材料を、必要な場所に、必要な量だけ精密に吐出できる、アディティブマニファクチャリングであることを強みとし、印刷領域を超えて、先端ものづくり領域への応用を広げています。その中核となるPrecisionCoreプリントヘッドは、MEMS加工技術により形成されたTFPアクチュエーター、インク流路、ノズルを備え、ピコリットル単位の微小な液滴を高精度に制御します。さらに、印刷インクにとどまらず、機能性材料、電子材料、バイオ材料など、さまざまな液体材料への対応力を高めることで、新材料・新プロセスへの展開可能性を広げています。インクジェットによる塗布は、基材に直接触れない非接触プロセスであるため、薄膜や凹凸のある表面、柔軟な基材などにも材料を配置しやすく、基材へのダメージ低減や工程自由度の向上に貢献します。また、版やマスクを用いないデジタルプロセスにより、材料ロスの低減、工程の簡素化、装置の小型化も期待できます。エプソンは、精密吐出制御と新材料・新プロセスへの高い対応力を生かし、半導体製造プロセスやペロブスカイト太陽電池などの次世代領域において、環境負荷低減と産業競争力向上に貢献していきます。

## 精密技術でテクノロジーの進化を支える | デバイス



## 精密加工・デバイス技術による価値提供

AI、データセンター、高速通信、EVをはじめとするモビリティの進化に伴い、社会を支える電子デバイスには、さらなる高精度化、小型化、低消費電力化、高い信頼性が求められています。エプソンは、長年培ってきた水晶デバイス、半導体、精密加工、実装技術を融合し、デジタル化とイノベーションの進化を支える高性能デバイスの開発を進めています。中でもタイミングデバイスは、電子機器や通信システムにおいて、信号の基準となる正確なタイミングを生み出す重要な部品です。水晶が持つ高精度・高安定という材料特性を最大限に引き出す設計・加工技術に加え、半導体技術や小型実装技術を組み合わせることで、低ジッター、省エネルギー、小型化を両立したデバイスを提供しています。これにより、データセンターや通信インフラにおける高速・大容量通信の安定化、電子機器の高性能化、モビリティ領域で求められる信頼性向上に貢献します。エプソンは、「省・小・精」の技術を基盤に、材料の特性を高精度に制御し、デバイスとして小さく、高性能に、安定して機能させる技術を磨き続けることで、次世代テクノロジーの進化を支えていきます。